



## 設定

---

RDR DHCP LEG の設定は、**sm-inst-dir**/sm/server/root/config ディレクトリにある 2 つのコンフィギュレーション ファイル、**p3rdr\_dhcp.cfg** および **p3dhcp\_pkg.cfg** を使用して行います (sm-inst-dir は Subscriber Manager (SM) のインストール先ディレクトリです)。

これらのコンフィギュレーション ファイルは、角カッコで囲まれた複数のセクション ([RDR server] など) で構成されています。各セクションは、parameter=value という形式で表わされる、いくつかのパラメータで成り立っています。番号記号 (#) で始まる行は、注釈行です。

RDR DHCP LEG および Raw Data Report (RDR) サーバの全般的な設定は、**p3rdr\_dhcp.cfg** に含まれます。ダイナミックなパッケージ アソシエーションに関する設定は、**p3dhcp\_pkg.cfg** に含まれます。

この章の内容は次のとおりです。

- [全般的な設定 \(p.4-2\)](#)
- [パッケージ アソシエーションの設定 \(p.4-4\)](#)

## 全般的な設定

ここでは、`p3rdr_dhcp.cfg` の設定変数について説明します。

[RDR Server] セクションには、次のパラメータがあります。

- **start**  
SM が起動時に RDR サーバをアクティブにするかどうかを定義します。  
このパラメータに指定できる値は、yes および no です。デフォルト値は no です。  
SCE から DHCP メッセージを受信するには、このパラメータを yes に設定する必要があります。
- **port**  
RDR サーバのポート番号を定義します。  
デフォルト値は 33001 です。



(注)

このポートへの接続が認められる IP アドレスを制御するには、お使いの機器で Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) を設定します。

- **max\_connections**  
サーバが受け入れ可能な接続の最大数を定義します。  
デフォルト値は 10 です。

[RDR-DHCP-LEG] セクションには、次のパラメータがあります。

- **start**  
SM が起動時に RDR DHCP LEG をアクティブにするかどうかを定義します。  
このパラメータに指定できる値は、yes および no です。デフォルト値は no です。  
RDR サーバで受信した DHCP メッセージを取り込んで処理するには、このパラメータを yes に設定する必要があります。  
RDR DHCP LEG を正常に機能させるには、RDR サーバもアクティブにする必要がありますので、ご注意ください。
- **log\_failures**  
SM が障害に関するメッセージをユーザ ログに追加するかどうかを定義します。  
このパラメータに指定できる値は、true および false です。デフォルト値は true です。
- **log\_all**  
SM がすべてのメッセージ（正常に実行されたログインおよびログアウトを含む）をユーザ ログに追加するかどうかを定義します。  
このパラメータに指定できる値は、true および false です。デフォルト値は false です。
- **use\_default\_domain**  
すべてのログイン動作に、デフォルトのドメイン「subscribers」を使用するかどうかを定義します。  
このパラメータに指定できる値は、true および false です。デフォルト値は true です。  
この値を false に設定すると、SM は該当するサブスクリイバに対する DHCP トラフィックを受信した SCE の IP アドレスと同じドメイン名を使用して、サブスクリイバのログインを実行します。この場合、『SCMS SM User Guide』の説明に従って、ドメインの別名を設定する必要があります。

[Sniffer] セクションには、次のパラメータがあります。

- **packet\_types**  
LEG に送信すべき DHCP パケット タイプを指定します。  
このパラメータに指定できる値は、DHCPDISCOVER、DHCPPOFFER、DHCPREQUEST、DHCPACK、DHCPNACK、DHCPRELEASE の任意の組み合わせです。  
デフォルトでは、DHCPACK に設定されます。

## 例

次に、コンフィギュレーションファイルの例を示します。

```
[RDR Server]
start=yes
port=33001
max_connections=10

[RDR-DHCP-LEG]
start=yes
log_failures=true
log_all=false
use_default_domain=true

[Sniffer]
packet_types=DHCPACK
```

## パッケージ アソシエーションの設定



(注) この項で説明する設定作業は省略可能です。

RDR DHCP LEG でのサブスクリバ パッケージの設定は、次のいずれかの方法で処理することができます。

- DHCP パケットから抽出した情報を使用して、ダイナミックにパッケージ情報を割り当てる。「[パッケージ情報のダイナミックな割り当て](#)」(p.4-4) を参照。
- RDR DHCP LEG でログオンするすべてのサブスクリバに、一定のパッケージIDをスタティックに割り当てる。「[パッケージ情報のスタティックな割り当て](#)」(p.4-5) を参照。

### パッケージ情報のダイナミックな割り当て

DHCP パケットからパッケージ情報が提供される場合、パッケージ情報をダイナミックに割り当てることができます。Login Event Generator (LEG; ログイン イベント ジェネレータ) は指定されたオプションを連結し、パッケージ名を作成します。パッケージ名とアプリケーションのパッケージ ID の設定を使用してマッピングすることも可能です。

DHCP パッケージからパッケージ情報を抽出するには、コンフィギュレーション ファイル **p3dhcp\_pkg.cfg** において、パッケージ情報を含むオプションタイプ、およびパッケージ名から SCAS のパッケージ ID への変換マップを定義する必要があります。

[Package Association] セクションには、次のパラメータがあります。

- **options\_order\_for\_package\_name**  
パッケージ アソシエーション情報を含む DHCP オプション (オプションの記述フォーマットは文字列でなくてはなりません) と、これらのオプション データを連結する順序を定義します。記述フォーマットは `option[:subtype], option[:subtype]` です。
- **name\_seperator\_value**  
オプションを連結してパッケージ名を作成するとき、オプション間で使用する区切り文字を定義します。任意の文字を使用できます。デフォルトは「`_`」です。
- **use\_default**  
DHCP データからパッケージ情報を抽出できない場合に、デフォルトのパッケージを使用するかどうかを決定します (設定可能なオプションが省略されている場合、またはオプションがまったく設定されていない場合)。指定できる値は `true` または `false` です。デフォルト値は `true` です。
- **default\_package**  
DHCP データからパッケージ情報を抽出できない場合に使用するデフォルトのパッケージ ID を定義します。このパラメータは、`use_default` が `true` である場合にのみ有効です。指定できる値は整数です。このパラメータにはデフォルト値はありません。
- **allow\_login\_with\_no\_package**  
DHCP データからパッケージ情報を抽出できず、なおかつ `use_default` が `false` に設定されている場合に、パッケージ情報なしでログインを実行するかどうかを定義します。このパラメータは、`use_default` が `false` である場合にのみ有効です。指定できる値は `true` または `false` です。デフォルト値は `false` です。
- **package\_property\_name**  
パッケージ情報を含むアプリケーション プロパティの名前を定義します。デフォルト値は、SCAS で使用されるのと同様、`packageId` です。

[Package Names] セクションには、DHCP パケットで提供されるパッケージ情報から、SCAS for Broadband アプリケーションが使用するパッケージ ID 番号への変換に関する情報が含まれます。

## 例

DHCP パケットのオプション 43 (Vendor Specific Option) でパッケージ情報が提供され、サブタイプ 102 および 101 が両方とも使用されていると仮定します。この場合、パッケージ名となるオプションの順序は、次のように設定する必要があります。

```
options_order_for_package_name=43:102,43:101
```

サブタイプ 102 のオプション 43 にパッケージタイプ (gold、silver、または bronze) が含まれ、サブタイプ 101 のオプション 43 にドメイン情報が含まれていると仮定します (パッケージタイプの意味はドメインごとに異なります)。区切り文字がデフォルト値である場合、パッケージ名は次の例のように設定する必要があります。

```
[Package Names]
gold_domain1=11
gold_domain2=12
silver_domain1=13
silver_domain2=14
```

この設定例では、DHCP パケットでサブタイプ 102 のオプション 43 に「gold」という値が含まれ、サブタイプ 101 のオプション 43 に「domain1」という値が含まれる場合、SM でこのサブスクリバに対応付けられるパッケージ ID が、11 という値になることを示しています。

次に、コンフィギュレーションファイル全体の例を示します。

```
[Package Association]
options_order_for_package_name=43:102,43:101
name_seperator_value=_
use_default=true
default_package=1
package_property_name=packageId

[Package Names]
gold_domain1=11
gold_domain2=12
silver_domain1=13
silver_domain2=14
```

## パッケージ情報のスタティックな割り当て

パッケージ情報を動的に割り当てる必要がない構成では、コンフィギュレーションファイル `p3dhcp_pkg.cfg` で、すべてのサブスクリバに割り当てられるデフォルトのパッケージ ID を定義する必要があります。次に例を示します。

```
[Package Association]
use_default=true
default_package=1
```

その他のパラメータは、いずれも設定する必要はありません。

